

NARO Research Prize 2012

プラウ耕・グレーンドリル播種方式の 寒冷地向け水稲乾田直播体系

大谷隆二、関矢博幸、冠 秀昭、中山壮一
(東北農業研究センター 生産基盤研究領域)

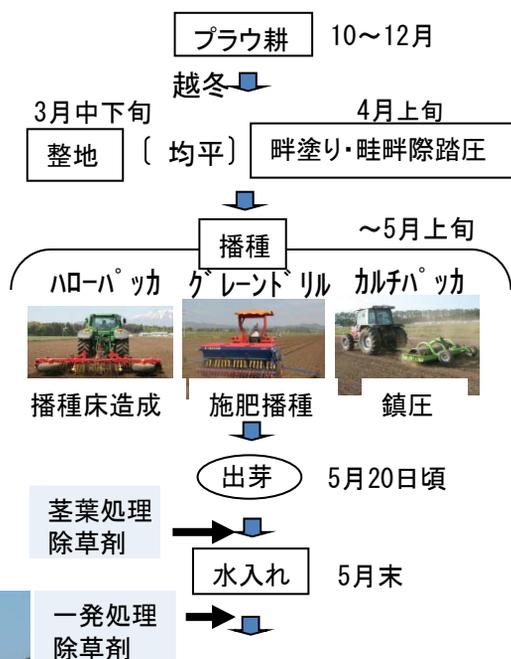
研究の目的・背景等

これまでの直播栽培は、作業速度や機械コスト、収量の面で生産コストの削減効果は必ずしも大きくなかった。また、乾田直播では、漏水や、苗立ちの不安定性、雑草対策等が普及拡大の障害となっていた。そこで、プラウ耕に鎮圧を組合せ、麦用グレーンドリルで高速播種する乾田直播栽培体系を開発した。

研究の概要

開発技術の特徴は、①プラウによる深耕とグレーンドリルによる時速10km程度の高速播種作業が可能であること、②ハローパッカ等による鎮圧で高い苗立ちが確保できること、③トラクタ車輪による畦畔際の踏圧等で漏水が防止できること、である。

プラウ、グレーンドリル等畑作用機械を所有する大規模経営農家(62ha)で、5年間にわたって実証試験を行った結果、直播適性品種の「萌えみのり」を用いることで600kg/10a程度の収量が得られ、米60kg当たりの生産コストは、慣行の東北平均と比較して55%程度まで低減した。



冠秀昭 関矢博幸 大谷隆二 中山壮一

乾田直播の作業体系

